



コロナ禍にあつてこそ、私たちは
～他者への非難や言動より、優しさや励ましの気持ちをより大きく！！

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

コロナウイルス感染者が奈良県内で過去最高人数になり、なかなか収束の兆しが見えません。それに伴い、コロナウイルス感染症に関する不安もこれまで以上に高まっているのではないのでしょうか。

感染症がもたらす怖さは、見えないもの、分からないものからくる「病気への不安」、その「不安・恐れ」が「差別」「偏見」を生み、人と人との信頼関係や社会のつながりが壊れてしまうことです。

「恐れるべきは、人ではなくウイルス」です。

私たちは誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があり、差別の加害者にも被害者にもなりうる可能性があります。感染した人が悪いということではありません。もし自分の周囲で感染した人がいたら、責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、早く治るように励まし、温かく見守り支え合うことが大事だと思います。そして周囲で差別等につながる言動があった時は、同調せず、勇気を出してやめるように声をあげていきましょう。心無い言動は本当に悲しいことです。

これからも、私たちは新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければなりません。今私たちに求められているのは、「正しく恐れるための知識（確かな情報）」であり、地域社会において分断・排除を許さず、「いのちと人権」を守り合う相互理解と共感・共生のまちづくりです。

私たちは心の中にある差別や偏見、他者への誹謗中傷や敵対心などをふくまさせるのではなく、支援や励まし、優しさを増やし、前向きに希望を大きくしていくことが大切ではないでしょうか。

STOP！コロナ差別

宇陀市人権啓発活動推進本部

2021.4

※このピラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp